

日本学術会議言語・文学委員会
日本文学の伝統と現代社会分科会

参加費無料
(定員100名)

公開シンポジウム

日本文学

藍

2026年

2月1日(日) 13:00~17:00

(12:30開場)

江戸時代、藍は産業として日本全国に広がり、江戸の街では「藍四十八色」が誕生して、鮮やかな藍色が人々を魅了しました。明治後期に安価で手軽な化学染料の登場によって危機に瀕したものの、現在ふたたびその素晴らしさに目が向けられ、ジャパン・ブルーと呼ばれて世界でも高く評価されています。本シンポジウムでは、そうした藍の色が、文学の中でどのようなイメージをもって捉えられてきたのか、奈良時代から現代にいたるまでのさまざまな文学作品を通して考え、日本人の色彩感覚や文化背景、生活と藍との関わりを探ります。

～プログラム～

- 13:00 挨拶 吉岡 洋（京都芸術大学文明哲学研究所教授）
13:05 講演 「日本古典文学に見る藍」 植木 朝子（同志社大学文学部教授）
14:30 講演 「日本近現代文学に見る藍」 有元 伸子（広島大学名誉教授）
16:00 討論 吉岡 洋・植木 朝子・有元 伸子

申込はこちら

先着順

締切日

2026年1月23日(金)

<https://forms.gle/TdxnLfxkc1FqtDCu5>



合理的配慮が必要な方は
2026年1月16日(金)
までにご連絡ください。
ご要望内容を検討のうえ、
できる限りの対応をさせて
いただきます。

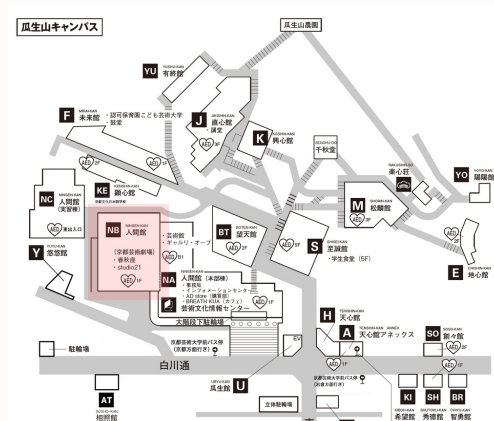
会場

京都芸術大学

京都市左京区北白川
瓜生山2-116

人間館3階（本部棟）
NA302教室

駐車場はございません。
会場へは公共交通機関を
ご利用ください。



問合先：日本文学と藍シンポジウム事務局



主催：日本学術会議言語・文学委員会日本文学の伝統と現代社会分科会
共催：京都芸術大学文明哲学研究所・デザイン工芸研究センター